

コンクリートの肌と色

杉本 賢司

コンクリート仕上げと景観デザインについて実例をあげながら述べる。

打ち放しコンクリートの仕上げで抜群の美しさを示すのが、東京都青山の鐵仙会（観世流）の建物。平和記念公園（広島）やチャンディガール（インド）とともにコンクリート仕上げを学ぶよい教材となる。

美しい打ち放しコンクリートの演出には、必ずといっていいほどセットになっているのが黒御影石の本磨き、ステンレスのヘアライン仕上げ、樹木、ライティングである。これは、光沢とツヤ消し、光と影の対比を表現することで空間設計をしている。

コンクリートの灰色の最大の特徴は、あらゆる色彩に対して中和作用を行うことである。セパ穴も景観デザインの要素として活用することができる。

（大成建設株式会社）

さいたま新都心と大宮駅前の カラーイメージ調査

福 瑠璃子

2002年9月29日、環境色彩研究会はカラーイメージ調査を、さいたま新都心と大宮駅前で実施した。

調査には、まちなみの美しさを色の面から評価する「まちなみ景観の色彩と快適性評価シート」を使用し、二つの対象地区と同じメンバー・同じ基準で評価することによって、まちなみ景観上の問題点や改善の要素を明確にした。

その結果、色彩・快適性共に地域A（さいたま新都心）に地域B（大宮駅前）よりも高い評価が出た。

評価項目中、特に地域差があった項目は「鮮やかで目立つ色の建物の有無」「広告物の色彩・掲示方法」に関するものであった。

街の新旧、公共空間色彩計画の有無が、要因として考えられ、色彩計画の重要性が認識された。ただし、「実際に住んでみたいか？」の項目では、それほど評価が分かれなかったのも興味深く、再度その本質を調査する必要がある。

伝統的美意識を探るための評価項目

—現代人の理解度—

日原 もとこ

我が国は歴史的に固有の伝統的美意識を形成してきたが、現代人の美意識は大きく変化してきている。

本調査では、様々な古語に対応する典型配色を推論し、「和」の配色のイメージ構造を探った。

その結果、「粹」「清ら」「華やか」という3つの拠点を持つ3角形のイメージマップが得られた。

この現象は、通常4象限をもつイメージ構造に対して、和の美意識は独特の三角形を示す3象限のイメージ構造であった。

この理由として考えられることは、「粹」という概念が江戸時代にあって奢侈禁止令の下、抑制された色使いでありながら、セパレーションというテクニックを使いながら、派手感を演出するという、複雑性をもつておらず、イメージ上では陽性型配色群にも位置付けられ、「陰陽」兼ね備えているという点が挙げられよう。

のことから、歴史的に変遷を重ねた伝統的な和の美意識は、現代感覚に照らすとき、変則的な構造を示したと言えるだろう。

（東北芸術工科大学）

紅花をめぐる色彩意識の差異について

—山形県河北町谷地における雛人形を調査事例として—

藤井 尚子

私は、わが国において社会的・文化的意識に浸透している赤色のうち、特に紅花という固有の色材をもつ紅色に照準を合わせ、研究を行なっている。

紅色に着目した理由は、紅花が生薬と染料の二つの実利性を兼ね備えており、いずれも共通する「女性性」に興味をもったためである。

しかし、実利的なものは、使う側（需要側）と作る側（供給側）がある。それぞれが求めた紅色は同じものであったのか、違うのであれば、その差異は如何なるものであるのか。

この立場の違いにおいて、紅色の色彩意識の差異を明らかにし、紅色は紅花の有する赤色色素カーサミンによる固有色ではなく、固有の事象を象徴する色であることを探ることが本研究の目的である。

（東北芸術工科大学）

お雛様のカラーイメージ調査

山川 やえ子

平成15年3月29日、30日に行われた当研究会見学会「最上川舟運で賑わった紅花と雛の里を訪ねる」において調査した雛人形衣装のイメージカラーについてまとめた。

被験者は参加者18名（男性5、女性13）。色とイメージワードの選択は往復の山形新幹線車中にて行った。